

Topic 1

◇ 新学年へ 学習スタイルを変えていこう！

今の時期に意識することは、新学年の学習法です。学年が上がると学校での環境が変わり、新たにやらなければならないことが増えたりするため、勉強時間が減り、いままでできていたことが出来なくなったり、成績を落としてしまう人が出てきます。今やるべきことは何かを確認していきましょう。

【新高3生】 いますぐ受験勉強を始めても合格率65%！？

大学入試に備えて、本格的に勉強に取り組み始めた時期ごとの大学合格率は、高2の2学期85%、高2の3学期が65%という調査があります(ちなみに高3の1学期37%、高3の2学期24%！と急降下)。「早く始めなければならないことはわかっているけど、ずるずると日々の勉強(学校の課題や予習・復習)だけになってしまっている」人は要注意！ 受験勉強のスタートを切るための行動を起こそう！

①英文法を総復習する：

学校で習った英文法に漏れはありませんか？ 英語の基本は全て「文法」に詰まっています。文法を疎かにして長文読解だけに時間をかけても身につけません。まずは学校レベルの英文法はパーフェクトにしよう(学校の英文法問題集を一通り解き直そう)。



②受験英単語・英熟語を暗記する：

高3の4月までに受験英単語・英熟語帳を1冊ずつ仕上げよう。完璧に覚えるのではなく、受験に必要な英単語・英熟語の全体を把握することが目的。そして、高3の夏前までに2周、夏休みに3周日、9月以降に4周日ができれば、単語・熟語では他の受験生に引けはとらない語彙力が身に付きます。「1日10個ずつやって夏休み中によりやく1周が終わる」予定ではなく、1日4ページずつやって夏休みで3周を終わらせるくらいの回転率でやらないと、忘れる速度の方が速くて覚えている数は増えません。

③数学の教科書の問題をすべて解く：

数学を受験に使う人は、既習単元の教科書問題を全て正解させよう(例題、問、練習、章末問題など全て)。教科書の問題を全て正解できる力が受験数学の土台になり、応用問題を解く力を養成します。

④理科・社会は映像授業と教科書と資料集を活用：

受験に必要な映像授業を早めに受講しよう。映像授業では、志望校レベルごとに、合格するためのカリキュラムが組まれているので、早めに受講開始すると余裕を持って進めることができます。



【新高2生】 成績を落とす人は、環境変化に弱い人！？

高2はよく中だるみの時期と言われますが、実は「環境の変化」についていけずに成績を落とす人が少なくありません。予測できる環境の変化や、苦手科目の克服は高1のうちに対処し始めておくことが大事です。

①文理選択科目に対応する：

文理選択の結果、より専門的に学習する理科・社会の負担が増えます。定期テストでも難易度が上がり、より細かい深い知識が求められるようになります。定期テストで思わぬ低い点を取ってしまうと、その後、補習やレポート提出など想定外の課題が課せられ、自主的な学習時間が圧迫されてしまいます。

また学校の授業対策については、理科は予習、社会は復習を習慣づけるとともに、2年次の予習を映像授業で今から先行して学習しておく、アドバンテージが得られます。

②時間管理能力を上げる：

高2になると部活や委員会で中心的な役割を負うことが多くなります。予習や課題提出など、今まで問題なくできたことが、時間に追われてできなくなる可能性があります。

曜日ごとの予習科目の時間配分を見直すこと、短い時間でできることを見つけ細切れの時間に割り振ること(英単語暗記などは細切れの時間だけで終わらせてしまう)、やらなくてもいいことを決める(1時間の授業に2時間もかけて予習するより、30分程度の予習で残りは授業で理解するという風に割り切る考え方も大事)など、進級を機に限られた時間を有効に使う術を身につけていきましょう。

【新高1生】油断大敵！成績の急激な低迷にご用心！

中3生は、高校生としての学習法がイメージできない人が多いのではないのでしょうか。ポイントは、高校では、スタート時は同じくらいの学力の人が集まっているので、中学時代に優秀だった人も、油断していると早い段階で成績下位グループになってしまうことです。逆に、中学時代は勉強が苦手だった人も、取り組み次第では、上位グループの成績をとり続けることができます。

高1の1学期の通知表の成績（クラス順位）が、高校3年間の成績に近いものになると言われています。一度成績が落ちると、そこから挽回することがとても難しいのが高校の勉強の特徴です（高1の1学期の成績がそのあと3年間続く人の割合は80%以上！）。

①受験勉強が終わっても気を抜かない：

入学直後のテストでクラス5位以内をとるつもりで勉強を継続しよう。中学の復習より、高校の予習を優先させることがポイントです。予習を行う中で不安を感じる中学の学習があれば、そこだけを復習します。とにかく高校の1学期で好成绩をとることを目標に、勉強時間を減らさないことが大切です。

②部活を言い訳にしない：

学習時間が減れば、どんなに優秀な人でも成績は落ちます。「部活の練習が長い」「疲れてしまって勉強できない」など、部活を言い訳にして学習時間を減らすことがないようにしよう。厳しい部活を続けても成績が良い人はいます。夜は早めに寝て疲れをとり、朝早く起きて勉強時間を確保するなど、工夫次第で好成绩を維持することができます。

③高校3年間の学習方針を決める：

高校卒業後の進路と、それを実現するための効果的な学習法を考えよう。多くの人は、学校の成績が優秀であれば、その分だけ希望の大学や企業に進める可能性が高くなります。それは学校推薦がもらえれば、就職にも大学進学にも有利だからです。つまり、学校の成績（通知表）を上位グループで維持するための効果的な学習法を実践する必要があるわけです。また、大学受験をして希望の大学に合格したいという目標を持っている人は、学校のテストはもとより、模擬テストで偏差値を志望大学に合格できるレベルまで引き上げるための学習法が求められます。

高校生になって学校成績を上げたい人、大学受験に向け模擬テストの偏差値を上げたい人、それぞれにあった高校講座が俊英館 Flex にはあります。進学先の高校が決まったら、いい形で高校の学習がスタートできるように、学習法や受講講座を担当の先生に相談してみよう。

Topic 2

合格体験記 喜びの声&後輩へのアドバイス

中島 眞奈 さん

■合格大学：帝京平成大学 健康メディカル学部 健康栄養学科

■学校名：県立松山女子高校 ■校舎名：東松山校



● 俊英館に通塾して良かったところは？

高校で吹奏楽部に入り、塾に通う日が限られていたので、Web 授業はとても助かりました。また、塾が開いている時間も長かったので、部活が終わってからや休みの日にも、塾に来て勉強をすることができてよかったですと思います。先生方には、受験が近くなると面接指導などもしていただき、応援してもらいました。塾に行くたび笑顔で迎えてくださったので、嬉しかったです。

● 後輩へのアドバイス

1, 2年の時は部活をやっている人も多いと思うので、勉強をする時間があまりないと思うのですが、初めのうちから計画的に勉強しておくことが3年生になった時の勉強につながっていきます。早いうちに自分が将来どのような職業に就きたいのか考えておくと、勉強のやる気にもつながります。

周りで進路が決まった人が出てくると、焦ってしまうこともあるかもしれませんが、自分なりに頑張ることが大切だと私は思います。

私は映像授業のおかげで、高校でどのように勉強すれば良いかが分かりました。みなさんも活かせると思うのではないかと思います。

1 18歳人口減少 大学3割が学力より学生数優先

河合塾は、全国の大学を対象にした朝日新聞との共同調査「ひらく 日本の大学」の結果として、高大接続改革や大学運営などについて公表した。

入学定員については、2018年度は18歳人口が大幅に減少し、大学運営は厳しさを増すことから、学部への入学定員を「増やす」と回答したのは20%。「現状維持」は62%、「減らす」は5%となった。「増やす」と回答した大学を設置者別にみると私立大学で24%、定員別では3,000人以上が25%、1,000～2,999人は27%となった。私立大学や定員が多い大学で「増やす」の割合が高くなっている。

また、入学者の学力と学生数のどちらかを重視するか尋ねたところ、「学力」61%、「学生数」31%と回答。設置者別に「学生数」と回答したのは私立大学がもっとも高い37%となり、定員別にみると定員の少ない大学ほど学生数を重視する割合が高くなった。

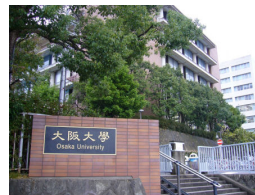
2 推薦・AO志願状況に明暗 お茶の水女子大・大阪大

旺文社によると、お茶の水女子大学の「新フンボルト入試」は倍率が9.9倍だったのに対し、大阪大学の「世界適塾入試」は志願倍率が1.2倍と、志願状況で明暗が分かれる結果となったことがわかった。

お茶の水女子大学の「新フンボルト入試」では、「図書館入試」を行った文系学科全体で113名が志願し倍率は10.3倍、「実験室入試」を行った理系学科全体で85名が志願し倍率は9.4倍だった。文理合わせて198名が志願し20名が合格。倍率（志願者数÷合格者数）は9.9倍となった。

一方、大阪大学は、11月16日に「世界適塾入試」出願状況の確定値を公表。募集人員270名に対して志願者数は332名、志願倍率は1.2倍だった。医学部保健学科では志願者がいなかったほか、外国語学部0.2倍、法学部0.2倍、経済学部0.3倍など志願者数が募集人員に満たない学部も見られた。

旺文社は、実施初年度から約10倍の倍率となったお茶の水女子大学を「スタートダッシュとしては大成功」、大阪大学を「一部の理系学部を除いて厳しい結果」と評価している。



3 千葉大学 飛び入学対象学部を拡大

千葉大学は、2018年度から飛び入学制度「先進科学プログラム」の実施分野を拡大し、園芸学部などの生命科学や化学分野でも導入する。世界に貢献する独創的な研究を担うことができる「若い才能」の発掘と、科学者の育成に力を入れていく。

飛び入学制度「先進科学プログラム」とは、高校2年の修了後に通常より1年早く大学に入学できる制度のこと。若い才能を発掘し、科学者育成を促すねらい。千葉大学では1998年より導入されており、現在は理学部、工学部、文学部における「物理学」「物理化学・生命化学」「フロンティアテクノロジー」「人間探求」の4コースで実施されている。

2018年度からは、園芸学部の植物生命科学分野や理・工学部の化学分野にこの制度を拡大する。よって、千葉大学では理系学部の多くの分野で飛び入学が可能となる。優れた能力や資質をもつ若者が早い時期から研究の基礎となる学問を深く学べるようになることで、研究者などになるためのプログラムを整えていくという。

入学時期は4月と9月。1998～2016年までの志願者は353名で、合格者は86名。卒業生は63名で、そのうちの55名（87.3%）が千葉大学をはじめ東京大学、京都大学などの大学院進学の実績をもつ。



オープンキャンパス

受験生や保護者を大学に招いて、入試日程や大学の概要の説明、学内見学や模擬授業を行い、また受験生のさまざまな疑問に個別相談で応えるなど、志望校を選ぶのに必要な情報を直接得ることができる機会となる。一般的には夏休みから秋にかけて開催する大学が多い。

調査書

出身高校または在学中の高校で発行される書類で、入学志願者の学業成績、健康状況、出欠状況、特別活動の様子などが記載されている。大学受験の際には必ず提出しなければならない。推薦入試では、調査書の内容を重視して選抜が行われている。また、一般入試でも、入試結果がボーダーラインの場合には、調査書が合否に影響することもある。

志願倍率

入試の競争率を示す数値のひとつで、志願者数を募集人員で割った数値。実際の倍率は、志願倍率よりもかなり低くなるのが一般的なので、「見かけの倍率」と言われている。これは、出願しても受験しない人がいたり、大学側も入学辞退者を見越して募集人員よりも多めに合格者を出すことが多いためである。志願倍率の高さに惑わされないことが大切である。

実質倍率

入試の競争率を示す数値のひとつで、受験者数を合格者数で割った数値。志願倍率と異なり、受験者数と合格者数から算出されるため、実態に即した倍率といえる。志望大学の過去の競争率を知るには、実質倍率を参考にするとよい。

指定校制推薦

推薦入試の制度のひとつで、大学が指定する特定の高校に限って出願を認めるもの。指定する高校は、過去の入学者の実績などを考慮して決められる。また、キリスト教系の高校に限るといった大学や、大学が設置されている県や市の高校に限るといった条件を設けている公立大もある。

自己推薦

受験生自身が、自分の能力や実績をアピールし、大学側が学業成績と合わせて合否を決める推薦入試の制度。近年、目だって増加し、多くの私立大学で実施されるようになった。学校長の推薦状を必要としない場合が多い。

大学入試センター試験利用入試

多くの私立大で実施されている入試制度で、2016年入試では、私立大学全体の約90%にあたる527校で、このセンター利用入試を実施している。大学が指定した大学入試センター試験の科目の得点のみで合否を判定する方式と、センター試験の得点と大学独自の試験の得点の合計で合否を判定する方式がある。センター利用入試は、一度センター試験を受験しておけば、多数の大学・学部に出願できるので、合格チャンスが広がるメリットがある。ただし、大学・学部により利用するセンター試験科目が異なるので、自分が受けた科目が利用できる大学・学部に限られる。

試験日自由選択制入試

多くの私立大で実施されている入試制度で、同じ学部・学科の試験が複数日行われ、受験生は試験日を自由に選択して受験できる。他大学との試験日の重複を避けることができ、同じ学部・学科を複数回受験することもできる。

全学部日程入試

最近、私立の総合大学で行なわれるようになった新しい入試制度。全学部・学科が同一問題で、同じ日に一斉に行う入試で、募集人員が少なく高倍率になりがちだが、1回の受験で複数の学部・学科を受験できるので、受験機会を増やせるメリットがある。全学部統一入試などとも呼ばれている。